

うめきた2期区域
まちづくりの方針の検討状況の
報告について(中間報告)

うめきた2期区域まちづくり検討会

役職等	氏名
◎ 建築家、東京大学名誉教授	安藤 忠雄
建築家、東京大学教授	隈 研吾
○ 東京都市大学教授、横浜国立大学名誉教授	小林 重敬
大阪府立大学大学院教授	増田 昇
ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長	室崎 益輝
大阪府立大学特別教授・大阪市立大学特任教授	橋爪 紳也
都市再生機構西日本支社長	伊藤 治
伊藤滋都市計画事務所 パートナー	長島 俊夫
大阪府住宅まちづくり部理事	井出 仁雄
大阪市都市計画局長	川田 均
(アドバイザー)	
東洋大学教授	根本 祐二
大阪大学名誉教授	宮原 秀夫

◎:スーパーバイザー ○:座長

まちづくり検討会の開催経過

第1回 まちづくり検討会 <6/13>

- ・検討会の設立、スケジュールについて
- ・まちづくりの方針の項目について
- ・議論のポイントや対話の方向性について

ワーキングによる対話 <7/1-18>

第1回検討会で確認した方向性に沿って
優秀提案者との対話を実施

第2回 まちづくり検討会 <8/7>

- ・対話の結果について
- ・まちづくりの方針の骨格について

第3回 まちづくり検討会 <8/25>

まちづくりの方針の中間とりまとめ(案)について

まちづくりの方針の構成(案)

1. 2期区域のまちづくりの目標
2. 「みどり」のあり方
3. 導入する都市機能
4. まちの骨格の景観形成、空間づくり
5. 交通ネットワーク
6. 災害に強いまちづくり
7. 環境共生のまちづくり
8. まちの管理運営
9. 周辺との一体的なまちづくり、周辺への波及効果等

1. 2期区域のまちづくりの目標

大阪のまちづくりの方向性

国際社会の情勢や国の政策動向とも呼応した位置づけが示される

グランドデザイン・大阪 (H24.6)

圧倒的な「みどり」の導入

国家戦略特区提案 (H25.9)

世界水準の都市空間の創出
世界から認められるイノベーション
創出拠点の形成

(検討会での議論)

- この地区の特徴である「みどり」を前面に出した目標にすべき
- 今までにないような「みどり」というメッセージが、この開発の特異性、創出性を表している
- 「国際競争力の強化」は、全く新しい競争力を獲得するくらいをめざすべき
- 国際競争力のある世界的な拠点を創ることを強く打ち出し、大阪が日本を担うくらいのスタンスとすべき

1. 2期区域のまちづくりの目標

世界に比類なき 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」

- まち全体を包み込む「みどり」が、ここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。

新たな国際競争力を獲得し、 世界をリードする「イノベーション」の拠点

- 世界から人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」の拠点。

- 「みどり」の力により2つの目標の連携を実現し、さらに「みどり」を最先端の防災・環境技術と融合させることによって、世界に強く発信できるまちづくりとする。

2. 「みどり」のあり方

(1) 「みどり」の役割

(提案の主な内容)

- まちの基盤となり後世に残すことができる「みどり」や、環境・防災の面でも寄与する「みどり」の提案
- 人が使い、市民の生活に溶け込んだ「みどり」、教育や健康の取り組みにつなげる「みどり」など、多様な利用を促しにぎわい等を継続的に生み出す、新しい価値を創造する「みどり」の提案
- 2期区域から周辺に緑が波及する、土地更新のきっかけづくりとなるような、周辺に波及効果を及ぼす「みどり」の提案

2. 「みどり」のあり方

(1) 「みどり」の役割

(検討会での議論)

- 「みどり」は、これまでにない新しいみどりの考え方を提示したい
- 一方で、こういうものと規定すると、大胆な提案に制約をかけてしまう可能性があり、幅広く受け止められるようにすべき
- 「みどり」についてはトータルとしての理念、土地利用的視点、景観的視点のように大きな柱とすべき
- 修景的な「みどり」だけでなく、人々が使いこなす「みどり」の考え方も重要
- 「みどり」には時間軸の視点や次世代に引き継ぐといった視点を

2. 「みどり」のあり方

(1) 「みどり」の役割

①まちの基盤となり、次代に受け継ぐ資産となる「みどり」

②使いこなしによって多様な活動を生み出す「みどり」

③成長しながら、周辺地域へ進出、波及効果を生み出す「みどり」

2. 「みどり」のあり方

(2) 「みどり」の空間形成

(提案の主な内容)

- 平面的な量に加え、建築物と一体化させることによる「みどり」の創出が重要で、「みどり」と建築物が各所で融合した多様な空間形成を提案
- さまざまな視点場からの捉え方を重視



(提案例)



2. 「みどり」のあり方

(提案の主な内容)

- 四季(季節感)を味わえる「みどり」、生物多様性を感じられる「みどり」、日本の文化を発信する「みどり」などの提案
- 淀川や中之島の水と連携させる、生命の源としての水・緑、水都大阪の再生の象徴(堀の再現)などの提案

(提案例)

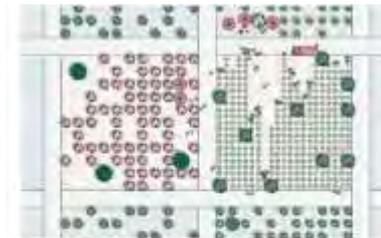


2. 「みどり」のあり方

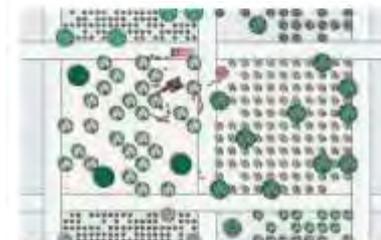
(提案の主な内容)

- 時間をかけてまちとともに成長、成熟する「みどり」を提案
- 「みどり」がさまざまな都市機能の連携を促進、周辺への波及を提案

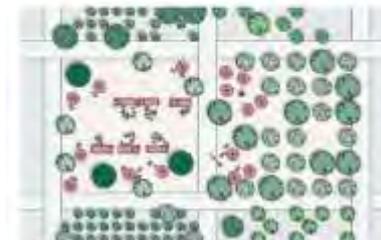
(提案例)



0年～
苗木植栽イベントにより、樹木に直接ふれあう



5年後～
「うめきた産」の緑を出荷



15年後～
圃場の空き地を利用した、市民イベント

2. 「みどり」のあり方

(2) 「みどり」の空間形成

① 斬新で質の高い景観を創る「みどり」

② メッセージ性のある「みどり」

③ 「みどり」の成長など時間軸を組み込んだデザイン

2. 「みどり」のあり方

(3) 「みどり」の配置・規模

「みどり」の定義について

(検討会での議論)

- 「みどり」の定義を明確に示す必要がある
- 水面も自然面を構成しているものとしてカウントすべき
- 地上の「みどり」はわかるが、残りは単なる屋上緑化ではカウントせず、地上と連続的に展開するものをカウントすることをはっきり出すべき
- 屋上緑化のように手の掛かるものでなく、かなり力強い「みどり」でなければならない

2. 「みどり」のあり方

(3) 「みどり」の配置・規模

「みどり」の定義

「すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこで人間の活動が豊かに展開される緑豊かなオープンスペース」

① 地上のまとまった「みどり」

- 接地性のあるまとまった「みどり」
- 恒久性、永続性を持つ

② 建築物と一体化し 地上と連続する「みどり」

- 地上のまとまった「みどり」と連続し、地上から円滑にアクセスできる建築物と一体化した「みどり」
- 「みどり」の新たな可能性を提示

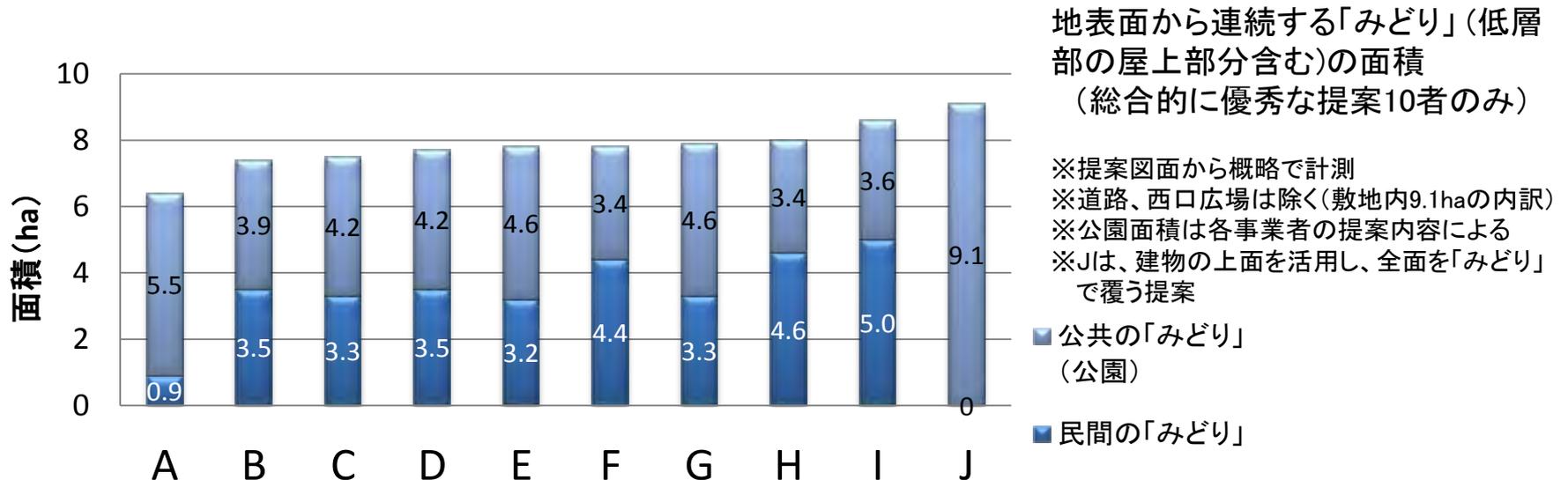
2. 「みどり」のあり方

(3) 「みどり」の配置・規模

「みどり」の規模について

(提案の分析)

- 規模については、事業上、建築計画上、地区全体で概ね8haの「みどり」、民間側で概ね4～5haの「みどり」の確保が実現可能
(概ね4～5ha前後が都市公園として提案されている)



2. 「みどり」のあり方

(3) 「みどり」の配置・規模

「みどり」の配置について

(提案の分析)

- 各提案者は、限られた面積の中で建築物の立地と圧倒的な「みどり」を効果的に確保するため、「建築物と一体化した『みどり』」と「接地性(恒久性)のある『みどり』」をできるだけまとまって配置する傾向
- 「接地性のあるまとまった『みどり』」は、地区中央部の東西軸(賑わい軸)に面して両側に配置する形が、JR大阪駅等の視点場からの眺望の確保や視覚的な一体感、隣接地区との緑の連続性、災害時の避難路等のアクセス性の確保、災害活動拠点の確保等から優位

2. 「みどり」のあり方



- 「みどり」を2期区域全体に展開し、概ね8ha(水面等も含む)を確保

- ①地上のまとまった「みどり」は、2期区域のシンボルとして、
地区中央部に概ね4haを確保

- 重要な視点場であるJR大阪駅からの眺望の確保や視覚的な一体感
- 隣接する周辺の緑との連続性
- 大規模災害時への対応における優位性等

3. 導入する都市機能

(1) 中核機能

(検討会での議論)

- 対話のなかで挙げられた新産業創出、人材育成、国際集客、交流機能などの分野は、今の段階で絞り込む必要はないが国家戦略としての観点は重要
- 目標は時代を超えて説得力を持つものだが、その中身は時代に応じて変わるので、次の展開に自由度を持たせたものにすべき

(提案の主な内容)

中核機能		必要性や効果
先端的な産業分野の研究・技術開発・実証実験等を図る機能	健康・医療分野	・国家戦略特区の位置づけと整合 ・関西のライフサイエンスのポテンシャル(彩都、神戸など)を関西一丸となって発信
	環境分野	・訪れる人が最先端の環境技術を体感し学ぶ ・グリーンビジネスの成長を勝ち取る拠点 ・みどり産業(食、水)と連携、実験ショーケース
知的な人材を教育・育成する機能		・グローバル人材の育成 ・ナレッジ・キャピタルとの連携、活性化
アジアのゲートウェイとして国際的な集客・交流を図る機能	MICE	・京都、奈良含めた文化芸術の強み ・ベイエリアのIRとの連携 ・都心の展示会開催は増加、先行開発区域施設と連動も
	都市文化創造・発信	・アートや芸術文化など新産業創出の拠点

3. 導入する都市機能

～「イノベーション」を生み出し成長を牽引するエンジン～

① 新産業創出（例：健康・医療、環境・エネルギー等）

○ 成長著しい分野で関西の産業集積の強み・ポテンシャルを最大限発揮

② 国際集客・交流（例：MICE・文化創造・発信等）

○ 関西の豊かな都市文化も活かし国際的な企業・産業活動等を誘致、展開

③ 知的人材育成（例：連携大学・大学院、国際化教育等）

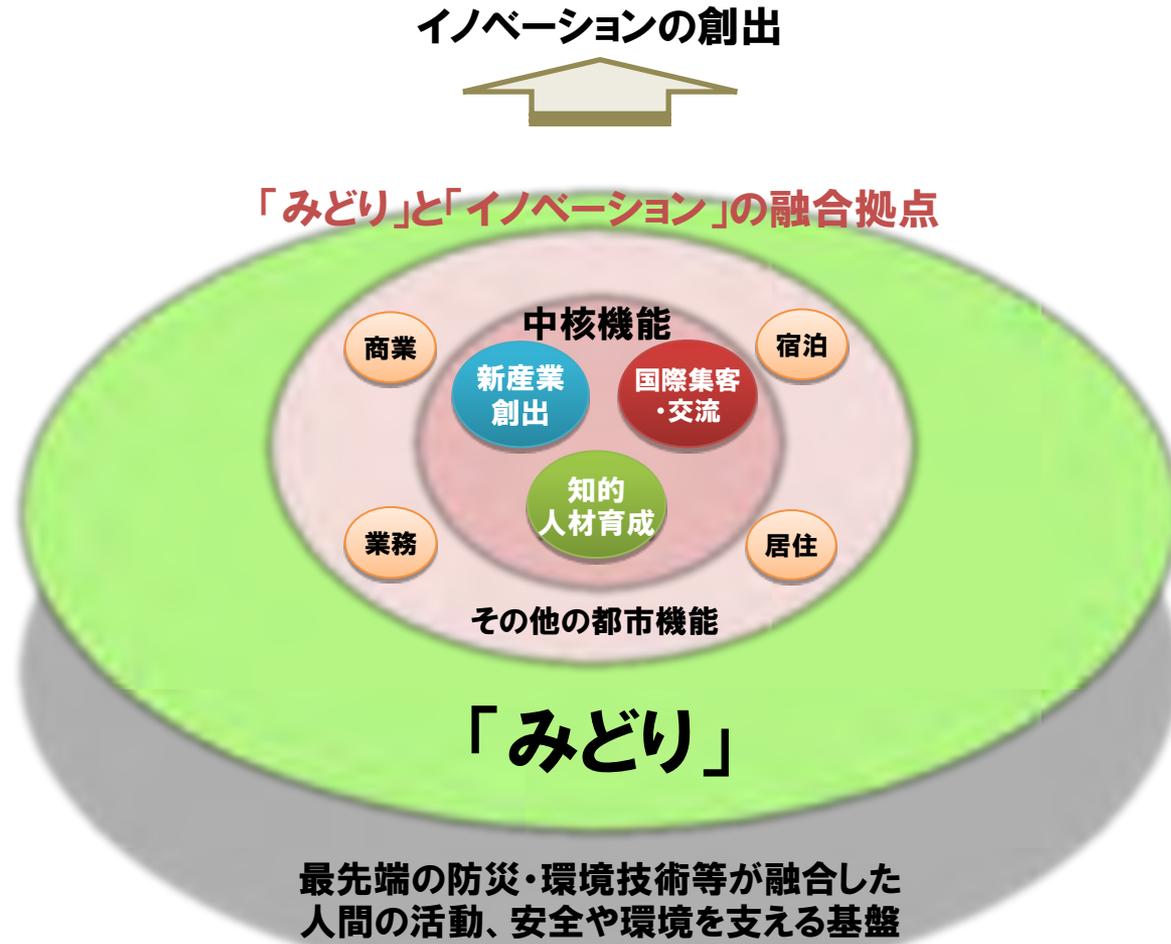
○ 知の集積により世界をリードするグローバル人材を育成、輩出



関西の国際社会での存在感を新たなステージに強力に引き上げ

3. 導入する都市機能

(2) その他の都市機能



導入する都市機能の概念図